

海洋安全保障研究会成果

2018年12月26日

海洋安全保障研究会 研究主幹 上野英詞

1 海洋安全保障研究会開催の背景

日本安全保障戦略研究所（SSRI）は2017年4月以来、我が国を取り巻く海洋物流ルートを巡る安全保障上の諸問題について、SSRI 研究員有志メンバーによる研究会を累次開催してきた。

四囲を海に囲まれた我が国にとって、海洋を通じて世界と繋がる海上物流ルートは経済の大動脈であり、生命線である。

特に、我が国の海上物流ルートの7割強はアジア、大洋州及び中東ルートであり、しかも我が国経済の血液とも言うべき鉄鉱石、石炭、原油及び LNG といった化石燃料の輸入ルートである。

地球儀を俯瞰すれば、これら海上物流ルートはユーラシア大陸の南縁に沿って、また大洋州から、南シナ海や西太平洋を通過して北上する。更に、現在のところ夏季限定とはいえ、将来的には北極海ルート（北方航路）の実用化が期待されている。

既に、中国は、「一帯一路構想」（BRI）の一環として「北極ルート」の創設を発表しており、2018年1月には、「北極白書」を公表して、中国の海洋覇権の野望が「北極海」をも視野に入れていることを明白にした。

将来的な北極海ルート（北方航路）の実用化は、ユーラシア大陸を南縁と北縁の全周を取り巻く海洋物流ルートを実現させるのみならず、宗谷海峡、津軽海峡を含む、我が国北方海域の海洋安全保障にも大きな影響が及ぶことになる。

我が国はユーラシア大陸の東端にあって、ユーラシア大陸を取り巻く海上物流ルートの結節点となる島国という地理的環境にあり、特にその南縁に沿ったルートの海洋安全保障の動向は、我が国の経済と安全保障に死活的な影響を及ぼす。

安倍首相が「自由で開かれたインド太平洋」をその安全保障政策の中心的課題の1つとしている所以である。

平成30年4月に策定された、第3期海洋基本計画では、「海洋の安全保障」が主要テーマの1つと位置付けられている。

「海洋の安全保障」を実現する上で前提となるのは、「海洋状況把握」（Maritime Domain Awareness: MDA）である。MDAは、2001年9月11日にテロ事件を契機にアメリカで始まった取り組みで、防衛、安全保障、経済など、国家レベルの諸問題に影響を及ぼす海洋情報を、政府関係諸機関で共有する仕組みである。その後、欧州でも、海洋環境保全を目的に加える形で広がり、現在では「海洋からの様々な人為的あるいは自然の脅威に対応するための情報共有基盤・枠組」として深化している（古庄幸一）。

従って、「海洋の安全保障」の前提となるMDAの視点から、習近平のBRIの中でも、特にユーラシア大陸の南縁に沿ったルート沿いにアクセス拠点を確保し、その姿を現しつつ

ある「21世紀海上シルクロード」の今後の動向を注視し、それがもたらす地政学的影響について分析していくことは、「法の支配」に基づく「開かれ安定した海洋」の維持、発展を目指す、「自由で開かれたインド太平洋」構想にとって不可欠の課題といえよう。

2 主な検討課題

- (1) 中国軍、特に海軍力の現状と将来動向
- (2) 台湾海峡の現状と将来動向
- (3) 中国の「一帯一路構想」(BRI)の概要(特に海洋ルート)とその狙い
 - a 「21世紀海上シルクロード」の狙い
 - b 「21世紀海上シルクロード」沿線におけるアクセス拠点の現状と今後の課題
 - c 中国のインド洋進出の現状とその狙い
 - d 「北極シルクロード」に見る中国の狙いと課題
- (4) 南シナ海仲裁裁判裁定後の南シナ海の現状と課題
- (5) インド洋を巡るパワーゲーム
- (6) アメリカのアジア政策の現状と将来動向
- (7) 我が国の対応策―「自由で開かれたインド太平洋」戦略の具体化に向けて

3 研究発表テーマ

以上のような問題意識から、2017年度の研究では、海洋物流ルートを巡る安全保障上の諸問題について、問題の所在とその現状認識を主眼としてきた。

そして2018年度の研究では、前年度の研究を踏まえて、以下の諸問題について、メンバー各位による研究発表を逐次実施してきた。

2018年度海洋安全保障研究会における研究発表者とテーマ

研究発表者	発表テーマ
上野英詞*	世界の現状分析と枠組み
	「北極海シルクロード」に見る中国の狙いと課題
	アメリカのアジア政策の現状と将来動向
本村久郎、小野田治	中国軍、特に海軍力の現状と将来動向
	南シナ海の現状と課題
小野田治	台湾海峡の現状と将来動向
矢野義昭	21世紀海上シルクロード
樋口讓次	中国のインド洋進出の現状と将来動向
米田富太郎	インド洋を巡るパワーゲーム
海野洋	中国の漁業と物流

宇田川 敬介	インド太平洋における石油とシーレーン
関根 大助	インド太平洋における英国とフランスの動向
小川 清史 先行して研究，全員で議論	我が国の対応策：「自由で開かれたインド太平洋」戦略 の具体化に向けて

注) * : 研究主幹

4 研究発表成果報告

研究会では、各担当メンバーは、パワーポイントスライドを用いて、発表してきた。

これらの発表を成果報告として、改めて文章化し、逐次、SSRI のホームページに掲載して、大方の供覧に付すことにした。

ホームページ閲覧者各位のご批判、ご助言を期待する次第である。

(研究会メンバー一同)

